



都市と地域の人をつなぐ

里都(さと)プロジェクト

里都バス！『皮むき間伐・体験バスツアー』

【開催日：2012年7月28日(土)】

都市と地域の人をつなぐ
里都プロジェクト

「里都(さと)プロジェクト」について

里都(さと)プロジェクトとは、
「都市」と「地域」との新しいつながり方・関わり方を、実践から学び、考えていくプロジェクトです。

「持続可能な幸せを感じる社会づくり」、重要なキーワードだと思います。
この新しい社会づくりのためには、「都市」と「地域」との新しい関係性を模索し、先行事例に学び、育んでいくことが重要ではないかと考えています。

そこで里都(さと)プロジェクトでは、
「様々な地域で、都市と地域をつなぐ活動を行っている方々」と、
「都市に住み、地域との縁をつくりたいと考える方々」との出会いの場をつくり、
お互いが学びあい、双方にとって新しい関係性を培うきっかけづくりに取り組んでいきたいと考えています。

都市生活者



都市と地域をつなぐ活動を行っている方々



地域生活者



【里都プロジェクト】

- ・メンバー: 大木浩士、有福英幸、濱谷玲子、大熊俊之
- ・主な活動内容: ネットワークづくりフォーラムの企画運営、WEBサイト等による情報発信、地域体験ツアーの企画運営、など
- ・WEBサイト: <http://www.satopro.jp/>
- ・お問い合わせメールアドレス: info@satopro.jp

『皮むき間伐・体験バスツアー』 開催概要

■タイトル: 里都バス!「森の体験プログラム 皮むき間伐体験・バスツアー」

■開催日時: 2012年7月28日(土) 7:30~20:30

■開催場所: 静岡県富士宮市 白糸の滝周辺の森など

■参加者: 24名

■主催: 里都プロジェクト

■協力: NPO森の蘇り、メモリー観光バス

※現地コーディネート・・・森の蘇り 大西義治様



=====

特定非営利活動法人・森の蘇り 設立代表者

=====

コピーライター、プランナーとして東京都内で勤務したのちに
独立して静岡県富士宮市に帰郷。

富士山麓がヒノキの宝庫であるにもかかわらず、戦後に植林された森の間伐
が遅れ、それが森林の荒廃や土砂崩れなどの環境問題となっていることを知
り、間伐(森づくり)と木材流通(木づかい)を両輪とする活動に取り組む。

現在は、誰もが出来る森づくりの手法として「きらめ樹」(皮むき間伐)の普及と、
「きらめ樹材」の活用を推進中。

参加者

参加者数は、里都プロジェクトのスタッフ(2名)を含め、24名でした。

人数	班番号	ニックネーム	お名前	ふりがな
1	1	たかしお	奥村 隆士	おくむら たかし
2	1	よし	杉浦 由枝	すぎうら よしえ
3	1	みゆきち	小針 望友紀	こばり みゆき
4	1	むーちょ	島村 咲子	しまむら さきこ
5	1	ゆう	桑原憂貴	くわばら ゆうき
6	2	りょうさん	竹内 良一	たけうち りょういち
7	2	たっち	橘 聖子	たちばな せいこ
8	2	Hiro	森田 裕之	もりた ひろゆき
9	2	ヨッシー	川村 喜子	かわむら よしこ
10	2		中谷 聡子	なかや あきこ
11	3	たかし	中山 高史	なかやま たかし
12	3	やのっち	矢野 理恵子	やの りえこ
13	3	なおみ	池田 正子	いけだ まさこ
14	3	レオ	嘉悦 裕悟	かえつ ゆうご
15	3	アキ	嘉悦 明彦	かえつ あきひこ
16	4	ひろぴょん	大木 浩士	おおき ひろし
17	4	ちかりん	中本千佳	なかもと ちか
18	4	くぼっち	久保元子	くぼ もとこ
19	4	健一	形川 健一	なりかわ けんいち
20	5	レイ	濱谷 玲子	はまや れいこ
21	5	かめ	亀谷 康仁	かめや やすひと
22	5	とっきい	土岐田 彩	ときた あや
23	5	バーバラ	小原 大樹	おばら だいき
24	5	あやの	小原 綾乃	おばら あやの(5歳)

集合、出発

集合は新宿駅西口。早朝にも関わらず、皆さま時間通りにお集まりいただき、定刻に出発することができました。バスの車内では自己紹介や大西さんからのメッセージの共有を行いました。



森の蘇り・大西義治さんからのメッセージ(抜粋)

日本は長く、世界最大の木材輸入国として、原生林伐採のメインプレーヤーとなってきました。現在も、その木材輸入量は変わっていません。輸入材の半分は紙、もう半分は合板、建材として使用されています。タスマニアでの原生林の伐採は、紙を目的に行われており、そのほとんど全量が日本の製紙会社に流れています。ここには、幾つかの問題が秘められていますので改めて整理します。

まず、日本が世界最大の木材の輸入国であり、世界の原生林を使い捨てにしていることです。

日本の木材輸入は1960年代から本格化し、1970年まではフィリピン、70年代インドネシア、80年代マレーシア、最近ではパプアニューギニアやソロモンというように、その取引国を変えながら続けられています。その結果、かつては国土の半分以上が原生林で覆われていたフィリピンの現在の森林率は十数%にまで下がっていますし、マレーシアのボルネオ島でもかつて8割以上あった原生林が半分以上になってしまっています。

次に、こうした熱帯雨林では、土壌中の有機質の分解が早いいため、土は痩せており、森の養分はそこにある樹木に蓄えられています。この樹木が持ち去れらますと、そこには痩せた土だけが残り、森の再生は困難になります。大量に伐採された原生林が元の姿になるには、数百年以上の歳月が必要と考えられます。そして、こうした再生不可能とも言える森の伐採を最も強力に推し進め、数百年以上にも渡って地球の姿を変えていっているのが、悲しいことに私たちの国・日本であり、しかもその国は国土の7割が森という、世界第2位の森の国であるということです。

さらに、自分の国の木を使わず、よその国の木を使い続けることで、日本の森は木が密集して瀕死の状態にあり、先の九州で起こったような土砂災害のリスクをも高めています。

しかし、最大の問題は、こうした様々な事実を、私たちが知らされていない、という事にあるかと思います。

タスマニアでの伐採反対キャンペーンは10年以上続き、1昨年は1万5千人を超える規模にふくれあがってきました。東南アジアでは立派な巨木が粉々に砕かれ、港の近くにはチップの山が築かれています。現地ではこれを「マウント・フジ」と呼んでいますし、日本のことを「森喰い虫」と呼んでいたりもします。しかし、私たちはそんな表現があることも知りません。

また、私たちの暮らしは原生林由来のベニヤ・合板製品で囲まれています。それも知らされてはいません。カラーボックスもシステムキッチンもマンションの床もほぼ、100%が原生林の木を砕いて作ったベニヤ、合板で作られています。でも、それを知っている人は極く少数です。

この結果、私たちは知らないうちに、3つの宝を失おうとしています。1つは世界の森とその土、2つは日本の森とその土、そして3つ目は、他ならぬ私たちの健康です。日本の風土に合わない木を接着剤で固めた合板には、防かび剤、防腐剤が練り込まれ、その揮発物質が私たちの体と心をむしばんでいます。

知らないうちに、私たちは地球を日本を、そして家族の健康をも脅かしてきた。しかし、ここに明るいチャンスがあると、私たちは考えています。知らないうちに重なってきたマイナスは、知ってしまえば、その全てにおいて、プラスに転換できます。それも、気持ちよさと、楽しさを伴ってです。

きらめ樹の楽しさは、今日、ぜひお確かめいただければと思います。そして、その木を使うことは、病気の代わりにかぐわしい森の香りを暮らしに持ち込み、癒しを授かる事でもあります。明るく蘇った森は、ライブやイベント会場としてもつきあっていけます。

そして、日本の森には、すごい力が眠っています。光が戻った森には、1年目に23種、2年目53種、3年目76種と、新しい命が次々と芽生えてきます。くり、どんぐり、木イチゴ。きらめ樹は、楽しくできる種蒔きでもあるのです。

今日、みなさまと共有したいのは、森や自然とひとつながりになる喜びです。スタッフ一同、楽しみにお待ち申し上げております。どうぞ、今日一日、よろしくお願いいたします。

NPO法人森の蘇り 大西 義治

間伐の必要性について、大西さんからのお話

富士宮市の森に到着。大西さんとともに「間伐前の森」と「皮むき間伐(きらめ樹)を行った森」に足を運び、間伐の必要性についてお話をうかがいました。



全員で記念撮影



河原で昼食



皮むき間伐(きらめ樹)を行う森へ

皮むき間伐(きらめ樹)を行う森に到着。最初に大西さんから、「森の豊かさを測る方法」と間伐を行う木の選木方法」についてご説明をいただきました。



皮むき間伐(きらめ樹)の実演

大西さんに「皮むき間伐(きらめ樹)」の実演をいただきました。間伐は木の命を奪う行為でもあります。間伐を行う前には、森と木々に祈りをささげます。



「きらめ樹」された桧(ひのき)



自分たちで「きらめ樹体験」

参加者は5人1グループに分かれ、森の蘇りのスタッフの皆さまからレクチャーを受け、「きらめ樹体験」を行いました。まずは間伐を行う木の「選木」です。



自分たちで「きらめ樹体験」



自分たちで「きらめ樹体験」



自分たちで「きらめ樹体験」



自分たちで「きらめ樹体験」

各グループが「きらめ樹」を行ったのは「35㎡(7m×5m)」でした。その面積内には約10本の杉桧が立ち並び、間伐の対象となるのは5～6本でした。

木の太さや曲がり具合などを1本1本調べ、残す木、間伐する木を選びました。



自分たちで「きらめ樹体験」

実際に森の中に入ってみると、風雨で根っこから倒れた木々、シロアリに侵された樹木、多様な下草や幼樹など、さまざまな森の様子に触れることができました。



「きらめ樹体験」の感想のシェアリング

グループごとに集まり、今回の「きらめ樹体験」で感じたこと、考えたことなどを共有する時間を持ちました。その後全体での共有も行いました。



無事終了

プログラムがすべて終了し、帰路へ。森の蘇りの皆様、本当にありがとうございました！ご参加いただきました皆様、お疲れ様でした。今回のご参加、心より感謝申し上げます。

